

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第16号
平成18年5月1日発行
●
発行
愛知県がんセンター
Tel.052-762-6111(代)

基本理念

私たちは病む人の立場にたって、最新の研究成果に基づき、最良の心あるがん医療を提供します。

The mission of Aichi Cancer Center is to provide patients suffering from cancer with the best, compassionate treatment and care based on leading-edge cancer research.

研究所長就任あいさつ

私は浜松市にある聖隷 三方原病院の外科医だった30数年前、故赤崎兼義初代所長の病理学に魅せられ、当センターのレジデントとして故須知泰山先生に病理診断学のみならず、物事の洞察学を学び、続いて富永祐民名誉総長のもとで疫学・予防学を研鑽する機会を得るなど、まさに「一期一会」の人生を歩んできました。

当センターは中部地方のがん撲滅拠点施設として開設され、がん克服を目指した創造的研究活動の場として、研究所には全国から多彩な研究者たちが集結しております。多くの諸先輩たちのたゆめぬ精進により、また中央病院と一致協力しながら国の内外で高い評価を受ける総合がんセンターに発展してきました。現在の研究所は9部一丸となり、疫学・予防研究、診断・治療研究、発がん制御研究などユニークながん研究を合理的に推進しております。



当研究所は平成12年度に大幅の定員削減を余儀なくされ、厳しい現状の中で研究機能を維持(研究の世界で機能維持とは向上のこと)していかなければなりません。また、当研究所の機能向上を図るには、人事管理、備品整備、先進的研究課題の設定、外部競争資金の確保、など多くの現実的な問題に対応していく必要があります。一方、若い研究員が楽しく、激しく、斬新的な研究を発展させていく環境を作ることも重要です。

私はよき伝統を誇る当研究所の更なる発展を願い、所長として大いに精進しますので、みなさまには変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

愛知県がんセンター・研究所長: 田島和雄

高橋利忠総長 第59回 中日文化賞を受賞

高橋総長が中日新聞社より文化の向上に寄与された方々に贈られる中日文化賞を「がん免疫治療の研究推進」に関する業績により受賞しました。

抗体ががん細胞を殺す仕組みを実験動物モデルを用いて解明。がんに関与する抗体を患者に投与する新たな治療法の基盤を築いたことが評価されたものです。歴代の9名の総長のうち7名が受賞しています。



がんは芥子粒のような小さな早期がんにはじまり、歳月をかけて成長し進行がんになっていきます。進行がんを構成するがん細胞を取り出して調べてみると、早期がんのがん細胞よりも性質が悪くなっています。がん細胞は病気の進行につれてだんだん性質が変わり、凶悪になっていくのです。

がん細胞は無秩序に増えますから、しばしば細胞にとって最も好ましい環境をはみ出して増殖します。はみ出たがん細胞は劣悪な環境で生きなければなりません。劣悪な環境のうち最も深刻なのは、酸素不足です。がん細胞はこの劣悪な環境で突然変異をくりかえし、その結果、低酸素環境でも生き延びる性質を獲得した、したたかながん細胞だけが、適者生存の法則で選択されて増えてきます。やがてがんの進行とともに、こういう低酸素抵抗性を獲得したがん細胞が増えて多数派となります。その性質はたいへん悪く、放射線治療や薬剤療法に頑強に抵抗し、しかも遠く離れた臓器にしばしば転移を起こします。



研究所
分子病態学部

部長 神奈木玲児

現在のスタンダードな治療法である放射線治療や薬剤療法が効きにくいこうしたがん細胞に対しては、新しい治療法を見つける必要があります。研究所の分子病態学部では、このような低酸素抵抗性を獲得した難治性がん細胞に特徴的な分子で、しかも細胞の表面に出ているようなものを見つける研究をしています。細胞の外側表面にそのような分子が見つければ、これを目標(ターゲット)とした治療が可能になるからで、すでにいくつかの候補が得られています(図)。

昨今は研究所も人員や予算の削減でたいへんになってまいりましたが、分子病態学部では国立がんセンターからリサーチレジデントや博士研究員の派遣などで応援していただき、主に文科省および厚労省関連の研究予算を得てこれらの研究を進めています。

図1

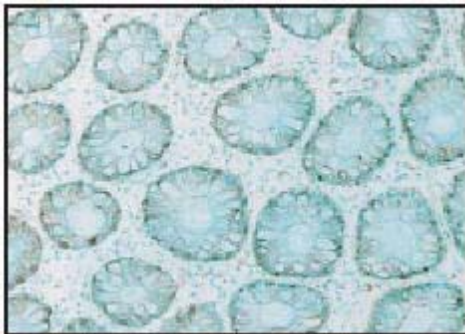


図2

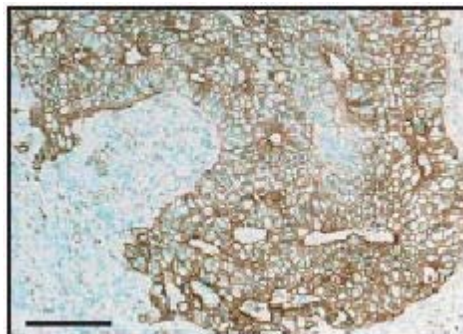
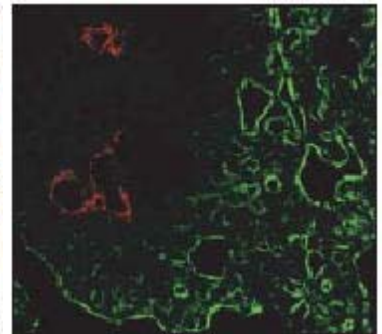


図3



治療抵抗性の進行がん細胞に出現する標的抗原糖鎖の一例で、正常の大腸(図1)にはほとんど出現しないが、低酸素抵抗性を獲得した性質の悪い大腸がん細胞(図2)には強く出現する(茶色に染まっている)。

図3の写真は血管を赤で、標的抗原糖鎖を緑で染めたもので、血管から離れた低酸素領域に存在するがん細胞が強く緑に染まっている。いずれも特異的単クローン抗体による染色(Cancer Res., 2006)

平成18年度 主な人事異動(就任)のご紹介

- 研究所長……………田島和雄(疫学・予防部長事務取扱)
- 副院長 2名増員し、4名体制に 光富徹哉(兼胸部外科部長)・不破信和(兼放射線治療部長)
- 運用部長……………伊藤文雄
- 薬剤部長……………三浦友一
- 看護副部長 1名増員し、3名体制に、新任は2名 中村直子(兼主任看護師長(中材))・雨森貞子(兼主任看護師長(手術室))



中央病院
薬物療法部

部長 室 圭



中央病院
薬物療法部

医長 宇良 敬

薬物療法部は平成18年1月から新部長が着任し、さらに4月からは新しい薬物療法専門医をスタッフに迎えてリニューアルしました。近年、がん治療における薬物療法(抗がん剤治療)の進歩は著しく、それを臨床の現場で安全に実践していくことが大事な責務であると考えております。私たちは主に、食道がん、胃がん、大腸がんといった消化管がんの化学療法、化学放射線療法を中心に、その他、原発不明がん、胚細胞腫瘍などの固形がんに対する化学療法を行っております。多くの臓器にまたがる腫瘍を相手にしていますので、消化器外科、胸部外科、消化器内科、放射線診断部、放射線治療部といった各グループと連携して診療にあたっています。

基本的に確立された標準的化学療法を行っていますが、さらなる治療成績の向上を目指した臨床研究(臨床試験)にも積極的に取り組んでおります。

また、標準的治療が確立していないがん種や標準的治療が無効な場合には、新規抗がん剤の臨床試験(治験)などを行い、新しい治療法や新薬の開発に努めています。最近では多くのがん化学療法を外来治療として行っております。

消化器内科部では消化器(食道、胃、大腸、肝臓、胆道、膵臓)悪性腫瘍の診断と治療を中心に日常診療を行っております。最新の内視鏡機器と最先端の技術により消化器がんの確実かつ効率的な診断を行っており、病態に応じて体に負担の少ない内視鏡治療や有効で安全な抗癌剤治療を提供しています。



山雄 健次



澤木 明



水野 伸匡



石川 英樹



放射線治療装置

Tomotherapyが稼動します。

平成18年5月から稼動する新しい放射線治療装置 Tomotherapyは強度変調放射線治療(IMRT)専用機として開発されました。IMRTとは照射口を形成する小さな鉛ブロックを開閉して照射野内の線量に濃淡をつけ、これを色々な方向から照射し、合成することにより結果的に放射線の分布を従来の方法よりも改善する方法です。本装置は従来の装置より大幅に小型の放射線発生装置(ライナック)を内蔵し、CTの様に治療用ベッドを可動しながら細いビームで照射します(写真)。

適応例としては複雑な解剖を有する頭頸部癌、直腸、膀胱を避けて照射する必要のある前立腺癌、脳転移例などです。



主な診療案内

平成18年5月1日現在の中央病院外来診療担当一覧です。

受付時間：午前8時30分から午前11時30分まで

(自動再来受付機)午前8時から午前11時30分まで

診療科	月	火	水	木	金
総合初診	波多野	樋田	山雄	森島	中村(常)
消化器内科	山雄(初診)・田近河合	山雄(初診)・水野河合・澤木	山雄(初診)・石川澤木	中村(常)・石川澤木(初診)	中村(常)(初診)・田近・水野
呼吸器内科	[初診]樋田(第1・5) 吉田(第2)・堀尾(第3) 清水(第4) [再来]堀尾	樋田(初診)・吉田	清水(初診)・樋田	堀尾(初診)・清水	吉田(初診)
循環器	波多野			波多野	
血液・細胞療法	山本(初診)鏡味・田地	森島・山本	鏡味(初診)・田地	森島・山本	鏡味・田地(初診)
薬物療法	室	宇良	室	宇良	室
頭頸部外科	長谷川・小川		長谷川・兵藤	(予約のみ) 寺田(第1・3)・小川(第2・4) (第5交代制)長谷川 寺田・小川・兵藤	寺田 兵藤(第2・4予約のみ)
胸部外科	(予約のみ)	福井	(予約のみ)	光富・波戸岡	光富・篠田
乳腺科	藤田(初診)・角田林	林(初診)・岩田角田	角田(初診)・岩田山下	山下(初診)・岩田林・藤田	岩田(初診)・角田 山下・藤田(午前のみ)
消化器外科	山村(第2・4) 伊藤(第1・3・5)・小森	金光・望月	加藤・山村・清水	安井・平井・伊藤	(予約のみ)
整形外科	杉浦・山田	杉浦	山田		杉浦(第1・3・5) 山田(第2・4)
泌尿器科	林		脇田		林・脇田
婦人科	丹羽(初診) 水野(初診)	中西・伊藤(初診) 丹羽(第1・3・5) 水野(第2・4)	[初診]水野(第1・3・5) 丹羽(第2・4) [再来]伊藤	中西(初診)・水野 丹羽	中西(初診)
放射線診断・IVR科	稲葉(初診)・佐藤		稲葉(初診)・山浦		稲葉・名嶋
放射線治療科	不破・古平・中村	古平・立花	不破・立花・中村	不破・立花	不破・古平・中村

※ 医師名の後の数字は、月の週を表します。 ※ 変更(休診)等がございますので、お電話でご確認ください。

※ 再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。

電話 052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始除く)

交通案内



地下鉄利用:「自由ヶ丘」②番出口から 徒歩7分

- ◎ 名古屋・栄から 所要時間:名古屋から約30分
東山線「藤ヶ丘」行き乗車、「本山」乗り換え、名城線「左回り」乗車、「自由ヶ丘」下車。
- ◎ 金山・栄・大曽根から 所要時間:金山から約35分
名城線乗車、「自由ヶ丘」下車。

市バス利用:「千種台中学校」下車 徒歩4分

- ◎ 名古屋駅から 所要時間:名古屋駅から約40分
基幹2系統「光ヶ丘」または「猪高車庫」行き乗車、「千種台中学校」下車。
- ◎ 星ヶ丘から 所要時間:星ヶ丘から約20分
星丘11系統「地下鉄自由ヶ丘」行き乗車、「千種台中学校」下車。

所在地 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1-1
URL : <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

Tel.(052)7 6 2 - 6 1 1 1(代)
Fax.(052)7 6 4 - 2 9 6 3